


特集 推しゴト 座談会

江戸の昔から続く文化と伝統が息づき、浅草や上野といった観光地に国内外から多くの人を訪れる台東区。その賑わいと活気を支えているのは、区内に暮らす人々の温かい、人を思いやる心です。それは、台東区の職員が、日々の業務の中で感じる台東区の魅力でもあります。青少年向けのさまざまなイベントに携わっている子育て・若者支援課の3人の職員に、業務を通じた地域との繋がりがりや職場の雰囲気、人間関係について語っていただきました。

職員インタビュー
推しゴト座談会の
動画はこちら




上司や同僚とのフラットな関係が成長を促す

高谷さん 私は入区して以来、窓口や産業振興、区長室での秘書的業務や広報などさまざまな部署を経験してきました。鈴木さんが新人として入区した時、障害福祉課で先輩と後輩として一緒に働いていたことがあります。4年前にここに異動した時は、もう一度同じ課になるとは思いませんでした。

鈴木さん 私が入区した当時から高谷係長は多くの人に慕われていて、コミュニケーション力はもとより交渉力に定評がありました。私はまだ追いつけていないので、異動を機に改めて頑張らなければと気を引き締めました。

遠藤さん 入区した当初は、係長という役職はとても遠い存在だと思っていました。でも、高谷係長はとても気さくに話しかけてくださって、何か困ったことがあるとすぐに相談できるので、とても助かっています。鈴木さんは私の新人サポーターなので、業務全般について細かく指導していただきました。

鈴木さん 新人サポーターを務めたのは初めてなので、わかりやすく説明するのに苦労しました。遠藤さんに教えるために調べて、改めて知ったこともたくさんあります。自分にとってもいい勉強になりました。

遠藤さん 私は自分の考えを言語化するのが苦手ですが、高谷係長も鈴木さんも人に説明するのがとてもうまいので、私も見習いたいと思います。区役所の職場はもっと静かだと想像していましたが、課の中が賑やかで明るい雰囲気なのは、お二人のおかげだと思います。

高谷さん 私もいつも皆さんに助けられています。遠藤さんは新人とは思えないくらい落ち着いていて、自分なりに考えて動く主体性があるので、これからの成長が楽しみです。私たちにはない新鮮な視点で疑問に思ったことはどんどん聞かせてほしいです。それが区民のみなさんのためになると思います。鈴木さんはもう私が全面的に信頼して任せられるだけの力を持っているので、遠慮しないで早く係長になってください。

助け合う気持ちがつくる働きやすい環境

高谷さん 私が入区した頃よりも制度が充実して、より働きやすい環境になっていますが、遠藤さんは何か福利厚生制度を利用していますか。

遠藤さん 最近、夏季休暇を取得しました。入区1年目から夏季休暇を5日もらえたのは、とてもうれしかったです。

高谷さん 鈴木さんは異動前の事務課で育児休業を取得していましたね。

鈴木さん はい、2年前に2人目の子供が生まれて3カ月の育児休業を取りました。1人目が生まれた時は育休を取得する男性がほとんどいなかったのですが、この数年で育休を取得する男性職員が増えて、周囲の理解も得やすくなりました。当時の上司と同僚には今でも感謝しています。



遠藤さん 私がいま同じ係で働いている女性も育休中で、育児休業代替職員や周囲が業務を分担してカバーしています。

高谷さん どんな仕事も一人ではできないので、助け合う気持ちを持たないと前に進みません。周囲の人を思いやるには、気持ちの余裕が必要です。私は係長として、メンバーのワークライフバランスが偏らないように配慮しています。より豊かに暮らすために、福利厚生制度もぜひ活用してください。

鈴木さん いまは子供一人につき5日間もらえる子の看護等のための休暇を使っています。私の家は子供が2人いるので、年に10日まで取得できます。子育て世代にとってはありがたい制度ですね。

大規模イベントで感じた職員としての誇り

遠藤さん 「青少年フェスティバル」を開催した時に、大勢の学生ボランティアや地域の方が参加してくださって、台東区の方々はとても協力的だと思いました。気さくに話しかけてくださる方が多かったのも印象的でした。

高谷さん 台東区は1年中街のどこかでお祭りやイベントがあって、地元町内会や観光、地場産業と区役所の関わりが深いのを感じます。

鈴木さん 区内で何代にもわたって商売をしている自営業の方も多いので、地域のコミュニティがしっかりしているんです。お祭りが盛んなのは、人と人の結びつきが強いからだと思います。

高谷さん 伝統や文化、そして観光産業を支えているのも、そうした人の温かさです。23区で一番小さな区ですが、美術館など文化施設やおしゃれなカフェなど、いろんな魅力がぎゅっと詰まっています。

鈴木さん 美味しいものがたくさんあるのも大きな魅力です。区役所から上野がすぐ近くなので、仕事終わりに飲みに行く時も困りません。

遠藤さん 業務を通じて観光や文化に触れるだけでなく、部署を超えて区を代表する大きなイベントに関わる機会もあります。隅田川花火大会に従事した時はうれしかったですね。台東区の職員であることを誇らしく思いました。

高谷さん 部署に関わらず、区民に寄り添いながら台東区の魅力を発信して、その価値を継承していくことが私たちの務めです。これからも頑張りましょう。

想像のはるか上をいくアクティブな職場

高谷さん 子育て・若者支援課は、青少年の健全な育成を目的に関係団体や地域活動の支援、青少年向けのイベント企画・運営を担っていますが、遠藤さんが担当したイベントのなかで、一番印象に残っているのは何ですか？

遠藤さん いまメインで担当しているのは「二十歳の集い」ですが、開催は来年なのでまだ終わっていません。既に終了したイベントであれば、9月に上野公園で開催された「青少年フェスティバル」です。大規模なイベントの運営は初めての経験だったので、とても勉強になりました。

鈴木さん 「青少年フェスティバル」は年間を通じて最大のイベントですからね。毎年、各地区のリーダーの方々や毎月会議を重ねながら、1年間かけて準備しています。今年も課のメンバー全員に声をかけて、会場の設営から手伝ってもらいました。遠藤さんをお願いしたのは、野外ステージで行われるパフォーマンスの進行管理です。

高谷さん フェスティバル当日はスケジュールが押してしまうなど、不測の事態もあって大変だったと思いますが、遠藤さんは落ち着いて臨機応変に対応していましたね。とても頼もしいと思いました。

鈴木さん 本当にそうですね。まだ入区1年目なのに、しっかりしてて頼りになります。先日、私が担当している「ひきこもりに関する講演会」のチラシ制作を依頼した時も、スケジュール通りに仕上げてくれました。

遠藤さん ありがとうございます。チラシを作ったり、「地区委員会だより」という広報紙の編集をしたり、区役所の仕事は窓口の受付がメインだと思っていたので、入区前に持っていたイメージと大きく変わりました。実際にはイベントや講演会など外に出ることも多いし、地域の方や学生さんと接する機会もたくさんあります。



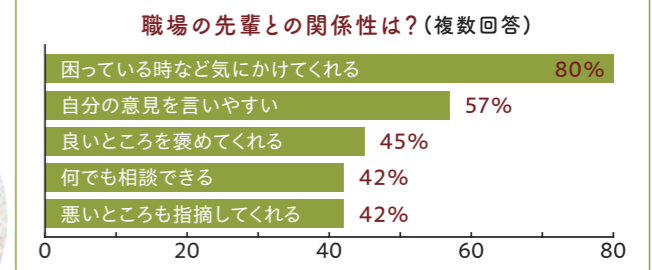
後輩
【一般事務】
区民部
子育て・若者支援課
遠藤さん
(令和7年度入区)



先輩
【一般事務】
区民部
子育て・若者支援課
鈴木さん
(平成27年度入区)



上司
【一般事務】
区民部
子育て・若者支援課
高谷さん
(平成6年度入区)



対象：令和5・6年度入区職員